

## 令和 2 年度認知症総合施策について

## 1、平塚市の認知症事業

平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画 [第 7 期]）にて、重点施策として「認知症総合施策の推進」があげられました。「認知症にならないために」「重症化しないために」「地域で支えるために」を柱とし、「認知症の人にやさしいまち」を目指して、以下の認知症事業を令和 2 年度に実施いたしました。

## ○認知症への備えのために（認知症にならないために）

## ・認知症予防教室

認知症に関する正しい知識と認知症になるリスクを減らした生活スタイルを学び、認知症になっても安心して生活ができるように認知症に対する対応策を学ぶ教室。

令和 2 年度（令和 3 年 1 月末まで）

よろず相談センター主催（市広報） 4 回 参加者数 39 人

4 月～8 月まで新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止  
地域から依頼の教室 27 回 参加者数 395 人

## ・脳とからだの体操リーダー養成講座

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止

認知症予防をめざした運動プログラム「コグニサイズ」を実際に体験しながら学び、お住まいの地域で広めていただく方を養成します。「コグニサイズ」とは、国立長寿医療研究センターが開発した体操で、息が上がるくらいの歩行や足踏みに、脳を刺激する課題（計算やしりとりなど）を一緒に行うものです。

## ・脳とからだの体操リーダーフォローアップ研修

新型コロナウイルス感染症の影響により脳とからだの体操リーダーの活動機会が少なくなっている状況から、今年度は脳とからだの体操リーダーの養成をやめ、フォローアップ研修に切り替えました。平塚市内で活動している脳とからだの体操リーダーが集まり、日頃地域で行っているコグニサイズを復習する内容です。

研修実施回数 5 回 受講者数 35 人

## ・アルツハイマー月間啓発事業 第 4 回「みんなで知ろう！認知症」

9 月の世界アルツハイマー月間に合わせて、認知症について広く市民に知ってもらう普及啓発活動を実施しました。

期間：令和 2 年 9 月 7 日～25 日

事業：パネル展示（市役所）

平塚駅南口噴水ライトアップ（駅南口広場）：9 月 7 日～21 日

普及啓発街頭キャンペーン（駅北口）：新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止  
湘南ベルマーレホームゲームイベント参加による普及啓発：新型コロナウイルス感染症

の拡大防止のため中止



- ・ **アルツハイマー月間以外にも認知症について広く市民に知ってもらう普及啓発活動を実施**

期間：令和3年2月8日～12日

事業：パネル展示（市役所）

- ・ **認知症普及啓発シンポジウム「広げよう！認知症への備えと認知症支援の輪を」**

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止

○症状の進行予防のために（重症化しないために）

- ・ **認知症相談件数**

令和2年度は令和3年1月末現在までに市内の各よろず相談センターで受けた認知症に関する相談は総数で2,524件。1つのよろず相談センターで1月あたり約19件の相談を受けていることとなります。（継続相談を含む延べ件数）

- ・ **認知症初期集中支援チーム事業**

認知症初期集中支援チームは平成29年4月に設置され、原則として40歳以上の在宅の認知症の人又は認知症が疑われる人及びその家族に対して、必要に応じて訪問や相談、指導、助言を行い、適切な機関へのつなぎや支援チームに関する普及啓発、情報収集及び観察・評価、継続的なモニタリング等を行います。

（医療法人社団みのり会 湘南いなほクリニックに委託。）

令和2年度は令和3年1月末現在で13のよろず相談センター全体で27件の相談があり、うち24件を認知症初期集中支援事業の対象者と選定いたしました。また、令和2年度1月末までに終了したのは30件となります。（令和元年度から継続ケース17件、令和2年度のケース13件）

- ・ **認知症簡易チェックサイト**

平成26年度から平塚市のホームページに認知症初期スクリーニングシステム「これって認知症」システムを導入し、市民が認知症等の問題に対し、気軽にチェックできる環境を整備し、相談窓口の周知を図っています。

令和2年度アクセス数：3,685アクセス（令和3年1月末現在）

（本人用：1,685アクセス 家族用：2,000アクセス）

## ・「物忘れ相談プログラム」による簡易認知機能検査

日本認知症予防学会も会員対象にレンタルを行っている、鳥取大学医学部の浦上克哉教授が開発した「物忘れ相談プログラム」を実装したタブレット端末を13全てのよろず相談センターに各1台導入し、認知症地域支援推進員等によるよろず相談センター職員が訪問相談や、地域のサロンや福祉村などで周知を行い、予約制で検査を実施しました。

検査結果により、脳いきいき講座への参加や医療機関への受診勧奨、サロンへの参加を促しました。

検査実施人数：535人（令和3年2月末現在）



## ・脳いきいき講座

認知機能低下予防に効果的と言われている「コグニサイズ」の習慣化を目的とした3か月間、全12回の講座です。

（株式会社セントラルスポーツに委託）

「コグニサイズ」とは、国立長寿医療研究センターが開発した体操で、息が上がるくらいの歩行や足踏みに、脳を刺激する課題（計算やしりとりなど）を一緒に行うものです。

今年度2講座の開催を予定していましたが、前期講座は緊急事態宣言の影響で実施できず、後期講座は感染症対策を行い人数制限して開催しています。

令和2年度受講者数：5人

## ○地域で支えるために

### ・認知症サポーター養成講座

認知症の方やその家族の応援者である認知症サポーターを養成し、認知症への理解の普及、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを目指します。

認知症サポーター養成講座は地域住民や教員、児童や生徒などを対象に公民館や学校等で開催しています。

令和2年1月末現在 開催数：30回 受講者数：717人

（受講者内訳）

一般の市民の方：134人 小・中学校や学童、専門学校の学生：424人

企業等の従業員、従事者：126人（6企業・事業所に対して実施）

行政職員：33人

認知症サポーターの延べ人数：24, 104人

### ・ 認知症サポーター養成講座修了者育成事業

13のよろず相談センターが主体となり、認知症サポーター養成講座修了者に対して「認知症の人ができるかぎり住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり」の担い手を養成するチームオレンジメンバー研修を行っています。チームオレンジメンバー研修修了者にはチームオレンジメンバーとして、認知症カフェの立ち上げや運営の手伝い、福祉村などの地域の団体でボランティア活動をお願いしています。

令和3年1月末現在      チームオレンジメンバー研修開催数：6回    受講者：38人

### ・ VR認知症体験会

チームオレンジメンバーを対象に、認知症への偏見をなくし、認知症を自分事としてとらえ、認知症本人や家族への接し方や寄り添い方について考えて、普段の活動に生かしていただくことを目的にヴァーチャルリアリティにて認知症の諸症状を体験しました。

新型コロナ感染症対策として、グループワークをやめ個人ワークに切り替え開催しました。

令和2年12月5日（月）午前・午後の2回開催      参加者95人



### ・ 認知症カフェ登録事業

認知症の方やその家族と地域の方が住み慣れた地域で、仲間づくりや生きがい支援、専門家等と相互に情報交換し、安心して集える居場所として広く市民に周知を行います。

現在1団体登録手続き中です。

登録認知症カフェ：9カ所

### ・ 認知症カフェ登録団体交流会

運営団体各々でやり方等工夫して開催していただいている認知症カフェについて、運営団体同士の交流の場を設け、困っている事や課題の解決につながるような情報交換を行うことで、より良いカフェの開催につなげていただく。また今後の活動の広がりにも期待できるため、団体同士のつながりができることを目的として開催しています。

令和3年3月11日（木）開催

アドバイザーとして各地域の認知症カフェについて情報発信されているフォトグラファークのユスガ聡一氏に講師依頼しています。

○感染症対策に関する認知症施策の取組み

- ・ 認知症カフェ登録団体への非接触式体温計の配布
- ・ フレイル予防対策事業と協力して、ちょい脳トレ体操リーフレットの配布とホームページへの配信

配布開始：令和2年9月4日～

配布場所：町内福祉村、公民館、通いの場、よろず相談センター、スーパー、薬局、認知症カフェ、市民病院、地域で開催される健康教育など

- ・ **織り姫と一緒にやってみよう！ちょい脳トレ体操の動画配信**

配信開始：令和3年1月19日～

配信内容：織り姫とやってみよう！！ちょい脳トレ

- ①指折り体操編
- ②手と足を同時に動かす体操編
- ③色文字編

## 2、課題と対応策

来年度に向けて考える課題と対応策は以下のとおりです。

### (課題)

昨年度末からのコロナ禍における活動の自粛で、高齢者の社会参加の機会の減少が1年以上続いています。市内には認知症の方が※約10,000人程度いると推計されていますが、活動量の低下とともに認知機能の低下について、不安に思っている人を含めると、さらに人数が増えていると思われます。

※市内の要介護者等のうち、認知症高齢者自立度が軽度以上の人数(令和2年9月末日現在)。

### (対応策)

今年度すべての高齢者よろず相談センターに導入した簡易認知機能検査機器を活用して、認知機能の低下や認知症の早期発見、早期対応に努めていきます。また自宅でも脳とからだの体操を取り入れて、活動量の増加と脳の活性化につなげるために、現在配信中の「織り姫とやってみよう！ちょい脳トレ体操」をDVD化して通いの場、サロン団体や認知症カフェ団体へ配布を検討しています。

### (課題)

令和2年度第一回在宅医療介護連携推進協議会で「認知機能検査機器を若い年齢からしたらどうか」との御意見をいただきました。

### (対応策)

広報ひらつかやホームページ、市内のよろず相談センターの広報紙などの情報発信のほか、市内の企業向けへの情報発信をしていくことを検討しています。

### (課題)

認知症予防と認知症になっても、地域で安心して暮らせる環境整備が課題となっており、認知症カフェの設置や地域住民、企業等を含めた社会全体で見守る体制を構築していく必要があります。

### (対応策)

登録していただいている認知症カフェ同士の交流会や認知症の御本人から御意見をいただき施策に活かしていくことなどを検討します。

認知症の人や家族の支援ニーズとチームオレンジメンバーを中心とした支援をつなぐ仕組み(チームオレンジ)を整備していきます。